

〔第15回 日本言語文化学会発表要旨〕

第二言語の読解における母語使用の意味—物語文再生と推論の過程を通して—

渡辺由美

(97.12.6発表)

1 はじめに

近年ESL研究では母語によるテキスト再生が評価手段として検討されつつあるが、実際も教育現場では学習者の母語は敬遠されがちである。Donin & Silva (1993)は、第二言語による産出が読解力の過小評価となる点を指摘している。今回は、テキスト読解後の自由再生課題を英語を母語とする日本語学習者に課し、母語(英語)と日本語の再生プロトコルを比較検討した。また再生プロトコル中の推論(後述)についても産出言語別に比較した。

読解後のプロトコルデータを扱う一方、理解過程でテキスト情報を再構築するための処理が再生にどのような影響を与えるのか調べるため、読解中の母語による自由筆記(以下メモ)を分析し、言語能力による読解中の処理過程を比較した。さらに読解中の推論と再生率との関係を明らかにした。

研究目的は以下3点とした。

- 1) 言語能力・産出言語の違いによって読解後の再生率に違いがあるか。
- 2) 言語能力・産出言語の違いによって再生データに表れた推論に違いがあるか。
- 3) 言語能力の違いによって読解中の推論に違いがあるか。また、よく推論されるテキスト部分は、よく再生されているのか。

2 実験方法

2.1 被験者

日本人母語話者(以下NS)12名、英語母語の日本語学習者(以下NNS)25名

NNS内訳：中級*学習者(以下中級)10名、上級学習者(以下上級)12名

*注)上級：学習歴通算3年以上で、日本語能力試験2級レベル以上の者

中級：学習歴3年以下で、日本語能力試験2級の実力に満たない者

2.2 実験素材

日本の昔話2編：「赤ん坊と男の子」、「返事をした泥棒」

上記の2つの物語の、一貫性の低い版*(Horiba 1996)を実験文とした。

*注)一貫性の低い版：4ヶ所のイベントの結びつきが意図的に取り去られたもの

2.3 実験手順

被験者は、以下の手順で2種の日本語のテキストの読解と口頭による再生（再話）を行った。読解後再話をしてもらう旨全員に最初に告げ、重ねてその都度指示した。

手順1) テキスト A を読み、日本語で再生

2) 再度テキスト A を読み、日本語で再生

3) テキスト B を読み、英語で再生

4) 再度テキスト B を読み、英語で再生

5) テキストの難易度、面白さや通常読む物、読み方についてインタビュー

- ・ テキスト A, B の順番と産出言語(L1 か L2) は被験者全員に偏りのないようカウンターバランスをとった。読解時間・再話時間は自由とした。
- ・ 読解中、分かったこと、分からないこと等を L1 でメモするよう指示した。

3 分析方法

3.1 再生率

再話プロトコルの音声録音テープを文字おこしして再生データとし、次の2種の分析単位で再生されているかどうかを評価し、それぞれの再生率をもとめた。

- ・ イベント分析 : テキスト A 33 テキスト B 28 (Horiba(1996)による)
- ・ 命題分析 : A B ともに 75 (Bovair & Kieras(1985)に基づき抽出)

全データ中6割について調査者以外の評価者にも評価を依頼した。2人の一致率はイベント、命題分析ともに86%以上であった。一致しない部分は両者で協議した。

3.2 再生データ中の推論部分

再生データ中、節レベルで「新たな情報が加えられたり意味が変えられたもの」(Donin&Silva 1993)を推論とし、言語能力と産出言語別に出現率を分析した。

推論 a : 出来事や人物の行動の因果関係を説明するもの(Trabasso&Magliano)

推論 b : a の要素が含まれない単なる情報の付け足しや変化 (誤りを含む)

その他 : 一般知識による連想・感想など

3.3 読解中のメモにみられる推論

読解中に L1 で書かれたメモの出現数を、言語能力別に分析した。さらに、出来事や人物の行動の因果関係を説明する推論 (Trabasso & Magliano 1996) と再生の関係をみるため、このようなメモ (以下推論メモ) があつたイベントの再生率を、全体の再生率とは別に算出した。

4 結果と考察

4.1 言語能力・産出言語と再生率

*言語能力と再生率

再生プロトコル中の再生率を、言語能力・産出言語別に算出した。(表1参照)。上級は中級よりもイベント・命題ともに有意に再生率が高い(L1はNSと同程度)。

(L1: イベント $F(1, 20) = 20.204, p < .001$, 命題 $F(1, 20) = 32.433, p < .001$,

L2: イベント $F(1, 20) = 17.647, p < .001$, 命題 $F(1, 20) = 15.269, p < .001$)

→言語能力が高い方が再生率も高い(L1, L2とも)。

*産出言語と再生率

分散分析の結果、上級の産出言語の主効果は、イベント・命題ともに有意であった。(イベント: $F(1, 11) = 11.157, p < .01$, 命題: $F(1, 11) = 10.840, p < .01$,)

→L1による再生の方が、理解内容をより正確に反映している。

中級では、産出言語の主効果はイベントのみ有意($F(1, 9) = 5.413, p < .05$,)で、命題では、有意ではなかった($F(1, 9) = 2.581$ n.s.)。

→言語能力が低い場合、詳細部の再生ではL1とL2に有意差がない。

*1回目の読みと2回目の読み

どのレベルでも1回目の読みより2回目でも有意に再生率が上がっている。

(上級: $F(1, 11) = 22.563, p < .001$, $F(1, 11) = 37.701, p < .001$,

中級: $F(1, 9) = 21.040, p < .005$, $F(1, 9) = 25.551, p < .001$)

→テキスト全体を把握した上での2回目の読みが、全体理解を安定させている。

4.2 言語能力・産出言語と再生データに反映された推論

平均再生節数に対する推論部分の割合を言語能力と産出言語別に示した。(表2)。

上級: 最初から因果関係の推論aが多く、適切に不足情報を補っている。

L1による再生よりも、再生率の低いL2でよく推論部分がみられる。

→産出が不十分なときほど適宜推論によって情報を補足している。

中級: 再生節数に対する推論部分の全体数が多いが、誤りを含む推論bが多い。

L1ではよく情報の付足しをするが、L2再生は節数自体かなり少ない。

→L2での再話の負担が大きく、誤りを犯さない範囲でとどめておく傾向。

4.3 読解中の推論と再生データ

* メモ全体

推論メモ以外の主なメモを、レベルごとにみると、次のようになる。

NS：人物の行動や出来事へのコメント、自分の読みに関する反応

上級：文レベルの処理（翻訳）、自分の読みに関するコメント

中級：語彙と文レベルの処理が主（ほとんど逐語訳）

→中級は細部にとらわれ、いわゆるボトムアップ読みの傾向が顕著である。

（特に1回目のメモには語彙の逐語訳が顕著に出現している。）

→NSと上級は、再生率には差がないが、読解中の処理の質に差がある。

* 推論メモ

NS・上級：推論メモが最初から多く、テキストの情報を補充し、一貫した表象を作るための因果関係の推論(Trabasso & Magliano 1996)をしている。

中級：1回目は非常に少ない。全体的な一貫性への注意は遅れている。

* 読解中の推論と再生率

NS、上級では15のイベントの再生率は、全体の再生率よりかなり高い。又、GOAL*情報が取り去られた部分についての推論メモは、全体の65%を占めた。

*注)GOAL:人物の行動を動機づける目的 (Trabassoら 1989 episodic grammar)

→NS同様、上級は物語全体を把握する情報としてのGOALに敏感である。

中級では全体の再生率と差がなく、再生に有効に反映するような推論が少ない。

<参考文献>

Donin, J., & Silva, M. (1993). The relationship between first- and second-language reading comprehension on occupation-specific text. *Language Learning*, 43, p373-401.

Horiba, Y. (1996). Comprehension processes in L2 reading. *Studies in Second Language Acquisition*, 18, p433-473.

Trabasso, T., & Magliano, J. P. (1996). Conscious understanding during comprehension. *Discourse Processes*, 21, P255-287.

Trabasso, T., van den Broek, P., Suh, S. Y. (1989). Logical necessity and transitivity of causal relations in stories. *Discourse Processes*, 12, p1-25.

表1 言語能力別の再生率

	N S	N N S			
		上級		中級	
		L 1	L 2	L 1	L 2
イハント	.66	.71	.59	.51	.40
命題	.60	.57	.46	.34	.27

表2 言語能力・産出言語別節数平均と推論の割合

	N S		上級		中級					
	(1)	(2)	L 1		L 2		(1)	(2)		
			(1)	(2)	(1)	(2)				
節数	27.0	29.3	32.5	34.9	24.3	29.3	23.2	27.0	18.4	22.6
イハント	.60	.72	.66	.75	.53	.65	.47	.55	.35	.46
推 a	.07	.03	.08	.07	.12	.09	.02	.03	.04	.05
推 b	.03	.02	.04	.02	.03	.03	.24	.12	.10	.08
計	.10	.05	.12	.09	.15	.12	.26	.15	.14	.13